



新型コロナウイルス感染症

知らないうちに、拡めちゃうから。



STOP!

感染拡大

— COVID-19 —

新型コロナウイルス感染症の国内発生動向
検査日別新規陽性患者数 令和2年7月31日時点

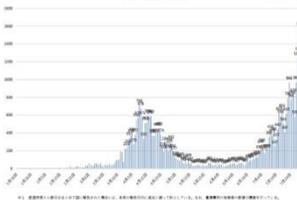


図1. 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(2020年7月31日現在)

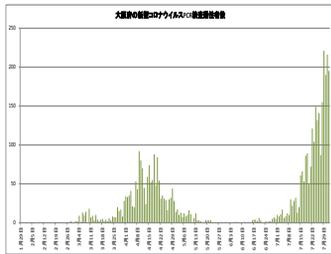


図2. 大阪府の新型コロナウイルスPCR検査陽性者数の推移(2020年8月1日現在)

新型コロナウイルス感染症の国内発生者数が増え続けています。2020年7月31日の日本国内での新規の陽性報告者数は1,574人(累積では36,088人)となり、大阪府は8月1日の新規の患者報告数195人、累積報告数4,252人、1日当たりの最多報告数は221人となっています(図1、図2)。1日あたりの国内の患者発生数が1,000人を超えていることが当たり前となり、大阪府の新規の患者発生数が200人を超える日もできましたが、8月に入って更に患者発生数は増加していくものと予想されます。3~4月の第一波と、今回の第二波とでは、実施されている診断のための検査(PCR検査、抗原検査)の数が大きく異なっていますから、単純に報告数のみで感染の規模を比較することは正確ではないと思いますが、首都圏や大阪府を中心とした関西地域の患者発生数は、7月に入って急増してきていることは間違いありません。

国内のPCR検査の実施可能件数が向上したために、今回は症状が短期間で軽度な20代、30代の年齢層も多く診断されていて、この年齢層が流行の中心であることが明らかとなりつつあります。この新型コロナウイルス感染症は、インフルエンザとは異なり、小・中学校や幼稚園、保育施設等の子どもたちの集団生活施設は地域の流行の中心とはならず、様々なところで指摘されつつありますが、いわゆる夜の街とそこに通う成人層(20代、30代が多いですがもちろんそれ以上の年齢層の方々もいます)が地域の流行に大きな役割を果たしていることが明らかとなりつつあります。また、最近発症した方へのインタビューからは、接待を伴わない居酒屋等で感染したと考えられる事例が増えてきています。新型コロナウイルスの感染経路を説明する概念として、新しく飛沫感染の一種である「マイクロ飛沫」がWHO等から提唱されつつあります(図3)。8月は更に患者数が増加し、それにとまって市中感染してしまう可能性も増加してくると思われれます。中津医療センターの皆さんは、これからしばらくの間、普段よりも自分以外のヒトも含めて誰かが大きな声を出したり、歌ったりするような場所への出入りはできる限り謹んでください。(感染管理室 安井良則)

資料2(参考)

新型コロナウイルス感染症はこうした経路で広がっています



- 3つの密を避けよう! ①換気の悪い密閉空間、②多数が集まる密集場所、③近くで会話や発声をする密接場面
- 手洗い・手指消毒、マスクの着用、2m(最低1m)の身体的距離が大事! 適度な換気も重要です!

図3. 新型コロナウイルス感染症対策分科会(第4回)マイクロ飛沫説明資料



ICTメイト内に新型コロナウイルスのアイコンが追加されました

ICTメイト内の患者配置マップより新型コロナウイルス陽性患者数が確認できるようになりました。ベッドマップでは、飛沫感染対策の背景カラーで表示されるように設定されております。診療・ケアにご活用ください。

内部資料のため閲覧不可

□ 空気感染、□ 飛沫感染、□ 接触感染



オレンジ背景 + 紫のアイコン